

# 令和5年度・現地調査報告（岩手県：11月8日～9日）

## ●実施日

令和5年11月8日（水）～9日（木）

## ●参加委員

今村委員長、浅野委員、奥野委員、戸塚委員、藤沢委員、山名委員（計6名）

## ●訪問先

岩手県陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町

## ●行程

### <1日目：11月8日（水）>

#### 【陸前高田市】

①高田松原津波復興祈念公園・東日本大震災津波伝承館

②3.11仮設住宅体験館

#### 【大船渡市】

③鎌田水産（株）大船渡工場

④（株）リアスターファーム浦浜農場



## <2日目：11月9日（木）>

### 【釜石市】

- ⑤岩手県釜石地区合同庁舎  
（水門・陸こう自動閉鎖システム）
- ⑥平田地区生活応援センター  
（釜石市の被災者支援の取組）
- ⑦うのすまい・トモス
- ⑧釜石市立双葉小学校（防災教育の取組）

### 【大槌町】

- ⑨旧民宿あかぶ跡地（ARアプリ体験）
- ⑩旧大槌町役場跡地（ARアプリ体験）
- ⑪大槌町文化交流センター「おしゃっち」



## ①高田松原津波復興祈念公園・東日本大震災津波伝承館

○復興祈念公園にて献花・黙とうをした後、伝承館を視察。その後、県・市の担当者を交えて、震災伝承活動、観光・交流人口拡大等についての意見交換を実施（デジタル田園都市国家構想交付金を活用した公園内での自動運転サービスの実証についても説明を聴取）。

〈意見交換の主な内容〉

- ・ 交流人口から移住・定住等に繋げていくための方策
- ・ 解説員や語り部の人材確保・人材育成、ネットワーク化
- ・ オール東北での連携の必要性
- ・ 震災から長期間が経過し防災意識が低下する中での更なる取組(防災教育・防災コミュニティ等)



復興祈念公園での献花の様子



伝承館での視察の様子

## ②3.11仮設住宅体験館

○3.11仮設住宅体験館は、震災当時に使用されていた応急仮設住宅の一部を活用した、体験宿泊施設。陸前高田市が整備し、同市の委託を受けて（一社）トナリノが運営。避難所の状況の再現や震災前の街並を復元した模型の展示等を行う施設も併設。

○施設の視察を行いつつ、運営団体の担当者から説明を聴取。



仮設住宅体験館での視察の様子

## ③鎌田水産（株）大船渡工場

○鎌田水産（株）は、震災で甚大な被害を受けたが、新たな漁船の造船（現在では国内最多となる大型サンマ船6隻を所有）や衛生管理型の工場（大船渡工場）の新設等を行い、従来の鮮魚・冷凍加工の事業に加え、高次加工食品の開発製造等にも取り組んでいる。

○漁業・水産加工業の現状等についての説明を聴取し、意見交換を実施。

〈意見交換の主な内容〉

- ・ 処理水放出に伴う輸出への影響と、新たな販路開拓等に当たっての苦勞
- ・ 物価高騰や人材確保への対応
- ・ 地域活性化への貢献



鎌田水産（株）での意見交換の様子

#### ④ (株) リアスターファーム浦浜農場

○(株)リアスターファームは、津波被災跡地を活用して令和元年2月に設立された、夏イチゴの栽培施設。復興庁・農林水産省の先端技術展開事業に研究員として関わった社長が研究成果等を活かして事業化。

○施設の視察を行いつつ、先端技術等を活用した夏イチゴ栽培・販売等の現状や、担い手育成の取組等について説明を聴取。



(株)リアスターファームでの視察の様子①

#### ⑤ 岩手県釜石地区合同庁舎（水門・陸こう自動閉鎖システム）

○岩手県では、東日本大震災の際、水門等の閉鎖作業に従事した多くの操作員が被害に遭ったことを受け、安全・迅速・確実な閉鎖を可能とするため、「水門・陸こう自動閉鎖システム」を整備。平成29年7月から一部で運用開始（令和4年度までに、計画した214か所中、206か所で整備が完了）

○県の担当者からシステムについて説明を聴取しつつ、システム操作端末等を視察。



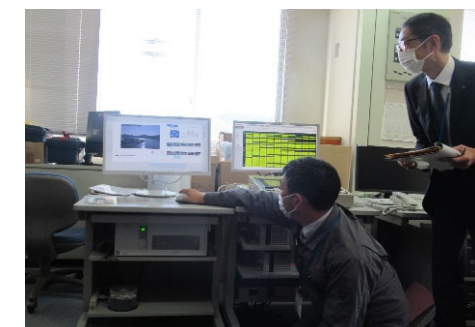
(株)リアスターファームでの視察の様子②

#### ⑥ 平田地区生活応援センター（釜石市の被災者支援の取組）

○釜石市の担当者から、「被災者支援総合交付金」を活用した被災者支援の取組（コミュニティ形成支援、被災者の居場所づくり・仲間づくり、高齢者等の見守りや困りごと相談への対応等）についての説明を聴取し、意見交換を実施。

〈意見交換の主な内容〉

- ・他の地域と異なるこの地域特有の課題・取組
- ・令和8年度以降の一般施策での事業の在り方（財源を含む）
- ・孤独・孤立政策との連動
- ・現在は県が担っている心のケアについての今後の市町での対応
- ・移住者・短期滞在者（「よそ者」）の果たす役割、地元コミュニティとの連携・繋がり
- ・地域文化・スポーツの持つパワーの活用、それを所管する教育委員会との連携



システム操作端末等の視察の様子



被災者支援に係る意見交換の様子

## ⑦うのすまい・トモス

○うのすまいトモスは、震災慰霊施設「釜石祈りのパーク」、防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」、観光交流拠点施設「鶴の郷交流館」等が一体となった施設で、震災時に多くの住民が犠牲となった釜石市鶴住居地区防災センター跡地に、平成31年3月に開設。

○祈りのパークにて献花・黙とうをした後、語り部（震災当時は中学生）の説明を聴取しつつ、未来館を視察。



祈りのパークでの視察の様子

## ⑧釜石市立双葉小学校（防災教育の取組）

○震災当時も釜石市内で勤務しており、防災教育に関する知見の豊富な校長から、東日本大震災での経験を踏まえた防災教育の取組について説明を聴取し、意見交換を実施。

〈意見交換の主な内容〉

- ・ 避難所となることへの準備・取組
- ・ 地震・津波を恐れる子どもへの防災教育の在り方・配慮
- ・ 伝承施設を訪れることの教育的意義
- ・ 内陸出身者と沿岸出身者の意識・知識の差
- ・ 防災教育で学んだこどもから親への影響
- ・ 防災教育の成果の地元地域及び他地域への展開
- ・ 教員の防災力・危機対応力の育成



未来館での視察の様子



双葉小学校での意見交換の様子

## ⑨旧民宿あかぶ跡地、⑩旧大槌町役場跡地

○大槌町の震災遺構は、被災者感情や維持管理費等を踏まえ全て解体されているところ、大槌町では、デジタル田園都市国家構想交付金を活用した「おおつち震災伝承ツーリズム推進事業」により、ARアプリによる被災状況の再現を実施。

○現地でその映像を視聴しつつ、町担当者から説明を聴取。



旧民宿あかぶ跡地での視察の様子



ARでの再現画像（旧民宿あかぶ跡地）



ARでの再現画像（旧大槌町役場跡地）

## ⑪大槌町文化交流センター「おしゃっち」

○おしゃっちは、津波によって全壊した町立図書館やふれあいセンターなどを集約した多目的施設で、平成30年6月に開館。震災伝承展示室も設けられている。

○施設を視察した後、町担当者から震災伝承等に関する説明を聴取し、意見交換を実施。

〈意見交換の主な内容〉

- ・ 伝承活動を通じて外部から人を呼び込むための取組・課題
- ・ 広域連携の重要性
- ・ おしゃっちに多くの住民が集まるようにするための工夫（設置プロセスへの参画、飲食可など）
- ・ 復興におけるデジタル技術の活用の重要性、IT企業の誘致やデジタル人材の呼び込みなど更に踏み込んだ取組の可能性



おしゃっちでの意見交換の様子